

「イギリスのホームステイで得たもの」

高校一年 T・A

「挑戦なくして学びはない。」

約三週間のイギリスホームステイを振り返ると、そのような言葉が頭に浮かんでくる。

ホームステイ前に先生や京王観光の方から、海外では自分の意思をはっきりと言葉にして伝えることが大切だと言われていた。しかし、いざホームステイが始まると、頭では理解していたけれど、質問にたいして機械的に「YES」「NO」と答えるだけで、自分の意思を具体的に伝えることができていなかった。当然会話は続かず、ホストファミリーから「怖がらないでもっと話さない。そうすることであなたの英語はもっと良くなる。」とアドバイスされる状況だった。私も、もう少し積極的に話さないといけないことは分かっていた。しかし、「変な英語だったらどうしよう。」という、周りの目を気にしてしまう思いの方が勝っていた。このままでは、ホームステイの意味がない。そう本格的に焦り始めた頃には、ホームステイから一週間が経とうとしていた。

そんなある日、私の行動を変えるきっかけとなる出来事が起こった。それは、テーブルマナーの授業の時だった。その授業の中で、イギリスの先生が「日本人のシャイな性格をイギリス人がどう感じているか」について話してくれた。日本には、相手の表情などから「空気を読む」といったことが多く、あえて言葉にしないことも多い。しかし、イギリス人にとって、その態度は相手にあまり関心を持っていないように伝わることもある事を教えてくれた。私は正直驚いた。私は、英語が母国語ではないため、多くを話せなくても仕方が無いと思っていた。しかし、それは自分が周りの目を気にするあまり挑戦してこなかったことを正当化していたに過ぎなかった。授業が終わってすぐに、同じ家にホームステイをしている友人と、残りの時間をどのように過ごすかについて話し合った。これまでの

イギリスでの生活を何気なく過ごしていたが、まずはその日の出来事をホストファミリーに話せるよう、常に頭の中で整理することを心がけた。

その日の帰り、早速チャレンジしてみた。ホストファミリーから「今日はいいい日だった？」と、いつもの様に尋ねられた。これまでもなら、「YES」で終わらせていたが、今日は「いい日でした。」と答えた後、具体的に授業で経験した内容を説明したり、逆にホストファミリーに質問してみたりした。すると、ホストファミリーから「あなた達の英語は良くなってきている。」という言葉が返ってきた。私は、とても嬉しかった。慣れない英語でも、勇気をもって話すことで、会話を深めることができたのだ。

私は、これまで何か失敗した時の周囲の人の反応を何よりも恐れしてきた。しかし、このホームステイを通じて、失敗を恐れずに挑戦することの大切さを学ぶことができた。周囲の目を怖がらずに挑戦することは容易なことではない。しかし、受け身にならず、自分から積極的に行動することで、より多くのことを学ぶことができる。このことは英語の学習に限らず、様々なことに通じている。特に、異文化を理解するためにはコミュニケーションが基本だ。これからグローバルな社会を生きていく中で、自分から一歩を踏み出すことは、絶対に必要だ。そのことが今回のホームステイで一番大きな学びであった。言語の壁を乗り越える第一歩は自分自身の中にある。そう強く感じる三週間だった。